

# 「母性内科」高まるハイリスク

妊娠前から出産後までを、内科と産科が連携してサポートする専門外来「母性内科」。持病があって妊娠に不安を感じる人、妊娠中に血糖値が高くなる妊娠糖尿病などの人が対

象だ。今春には中部9県で初めて、富山県内の病院に開設された。妊婦の高齢化などに伴い、リスクの高い出産が増えていることを受け広がりつつある。(河野紀子)

## 妊娠前から産後まで心身サポート

### 母性内科の受診を勧めるケース

- 糖尿病、高血圧などの持病があって妊娠を希望する人
- 妊娠糖尿病、妊娠高血圧を経験した人
- 不妊治療中で生活習慣の改善を勧められた人
- よりよい妊娠や出産のため、栄養指導などを受けたい人
- 出産後、体調が悪い人



(取材を基に作成)

母性内科は一九八一年、ハイリスクの出産を多く扱う大阪母子医療センター(大阪府和泉市)が国内で初めて開設。母子両方の健康を守るためには、妊婦健診や分娩を担う産科だけでなく、糖尿病や高血圧などの疾患に詳しい内科の医師が連携する必要があると判断したという。これまでに受診した女性は約四十二万三百人を超える。

## 妊婦高齢化 持病などリスク管理

### 母性内科外来を開設している医療機関

■富山赤十字病院	富山県
■国立成育医療研究センター	
■昭和大病院付属東病院	東京都
■都立大塚病院	
■都立多摩総合医療センター	
■神奈川県立こども医療センター	
■横浜医療センター	神奈川県
■聖マリアンナ医科大	
■埼玉医科大病院	埼玉県
■自治医科大付属さいたま医療センター	
■大阪母子医療センター	
■ふじたクリニック	
■有沢総合病院	大阪府
■大阪医科薬科大病院	
■大阪急性期・総合医療センター	
■国立循環器病研究センター	
■辻内科医院	和歌山県
■島根大病院	島根県
■鳥取県立中央病院	鳥取県

は、もともと糖尿病や高血圧などの持病がある人、または妊娠を機に妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群を発症した人という。日本産科婦人科学会によると、妊娠糖尿病は妊婦の7〜9%、妊娠高血圧は5%に起きる。糖尿病は胎児の先天異常や巨大児、高血圧は早産や胎児の発育不全などのリスクが高まる。そのため、出産まで食事療法や運動指導、血糖をコントロールするインスリン療法が必要となることも多い。

出産後のケアも大切だ。妊娠糖尿病や妊娠高血圧に

### 全国19施設 都市部が中心

母性内科は全国十九施設に設置されているが、東京や大阪など都市部が中心。今年四月、中部で初めて、富山赤十字病院(富山市)に誕生した母性内科は、糖尿

なった場合、数値は出産後にいったん正常化するが、それぞれ糖尿病や高血圧になりやすいことが分かっている。二〇一一年度の厚生労働省の研究によると、糖尿病は五年後に五人中一人、高血圧は五〜六人に一人が発症するという。センターを受診したある

女性は、妊娠糖尿病を患って出産。その後は病院にかからず、糖尿病になったことに気づかないまま、高血糖の状態での出産。生活習慣の変化による肥満、過度なダイエットによるやせすぎの妊婦も少なくなく、母性内科の重要性はますます高まる。一四年には、和栗さんが理事を務める日本母性内科学会が誕生。年一回の学術集会や研修会で、さまざまな分野の医療関係者が知識を深めている。

晩婚化の影響で、近年は胎児に影響が出やすいとされる三十五歳以上の高齢での出産が増加。出産数全体の約三割を占める。生活習慣の変化による肥満、過度なダイエットによるやせすぎの妊婦も少なくなく、母性内科の重要性はますます高まる。一四年には、和栗さんが理事を務める日本母性内科学会が誕生。年一回の学術集会や研修会で、さまざまな分野の医療関係者が知識を深めている。

## 中部初 富山市に開設

病専門医の川原順子さん、仙田聡子さんのほか、助産師や栄養士の十人体制だ。

毎週火曜午後二時から四時まで。完全予約制で一人当たり二十分ほどをかけ、医師の診療と栄養士の食事指導などを行う。過去に妊娠糖尿病や妊娠高血圧になった人、不妊で悩む人、肥満などリスクの高い人などが多いという。仙田さんは「体の治療だけでなく、話を聞いて不安を取り除く。心身のサポートを心掛けています」と話す。今は同病院の産婦人科から紹介されてくる患者が多い。川原さんは「普段からかかる中規模の総合病院だからこそ、気軽に受診してもらえることが手応えを感じている。予約など問い合わせは同病院へ電話076(4333)2222へ。」